

蒲生氏郷公顕彰事業・(公財)岡田文化財団助成
令和元年度 第六回

松阪市民能

恋重荷

この

おもに

能 恋重荷

山科庄司 青木道喜
庄司の亡霊

白河院の女御

白河院の臣下

間狂言(下人)

古橋正邦

原 大

小笠原匡

大鼓 河村 大

小鼓 吉阪一郎

大鼓 前川光範

笛 森田保美

ほか



令和元年

11月2日(土)

午後4時30分開場 午後5時開演

農業屋コミュニティ文化センター

三重県松阪市川井町 690

主催：松阪能楽連盟

共催：松阪市

後援：(一社)松阪市観光協会・松阪商工会議所・松阪呉服商組合

入場料 1,000円(全席自由席・税込) 一般発売 9月20日(金)

チケット発売所 クラギ文化ホール・松阪能楽連盟

チケットのお問い合わせ：クラギ文化ホール TEL. 0598-23-2111

市民能のお問い合わせ 松阪能楽連盟(上森) TEL. 0598-23-1935

第六回 松阪市民能

午後四時三〇分開場
午後五時開演

開会挨拶

第一部

独 鼓(若葉会)	紅葉狩クセ	大北 京子
船弁慶クセ	小川とし子	
半 蔀キリ	鈴木 とし	
野 宮キリ	山川 俱子	
歌 占キリ	奥村 真弓	
仕 舞(竹謡会)	伊藤 愛子	
山 姥クセ		
舞囃子(若葉会)		
松 虫	日野 敦子	
大鼓 河村 大	笛 森田保美	
小鼓 森田佳奈		
仕 舞(松阪商工会議所)	YEG伝統文化研究会	
春日竜神	宮下 慎也	
屋 島	野呂 英旦	
胡 蝶	竹本 匡博	
錦 木	片上聡一郎	
鞍馬天狗	森 靖治	

挨拶

午後六時三〇頃

第二部

仕 舞	砧 前	片山九郎右衛門	地謡	大江 信行
お話し		橋本光史		分林 道治
能 楽				味方 玄
女御 古橋 正邦				橋本 光史
前山科庄司				
後庄司の亡霊	青木 道喜			
恋重荷	院の臣下	原 大	大鼓 河村 大	太鼓 前川光範
問狂言(下人)	小笠原 匡		小鼓 吉阪 一郎	笛 森田保美
後見	大江 信行		片山九郎右衛門	
地謡	岡田 照正		朝倉 秀雄	橋本 光史
	橋本 忠樹		味方 玄	
	分林 道治			



能 恋重荷 こいのおもに

前場 菊を寵愛する白河院の庭で、毎年菊の下葉取りをしていた山科荘司という老人がいました。老人はある時、白河院の女御の姿を垣間見て以来、恋わずらいになってしまいました。その噂を聞きつけた院の臣下は荘司を呼び出し、噂の真偽を問いただした後、女御の言葉を伝えます。それは、錦で美しく包まれた荷「恋の重荷」を持ってこの庭を百回も千回も巡るなら、その間女御が姿を見せようというものでした。

荘司は勇んで荷を持ち上げようとしますが、荷は重くびくともしません。老人はついに力尽き、女御を怨みながら失意の中で息絶えてしまいます。

後場 荘司が亡くなったと聞き、臣下は不憫に思います。実は重荷は錦で包んだ巖。とうてい老人には持ち上げられない物で、荘司に恋を諦めさせるための方便だったのです。臣下は、こうした者の一念は恐ろしいから、一目見てやるように女御に勧めます。女御はさすがに哀れに思われ、重荷の所へ行き、「恋よ恋、我が中空になすな恋」と悼み、やがて立とうとしますが、磐石に押さえつけられたように動くことが出来ません。そこへ荘司の亡霊が現れ、女御に詰め寄り、恨みを述べて責め苦しめます。

しかしやがてその心も和らぎ、跡を叩つてくれるなら恨みも消え、千代までも女御の守り神になろうと告げ、姿を消します。

会場のご案内
農業屋コミュニティ文化センター
〒515-0818 三重県松阪市川井町 690 TEL. 0598-23-2111

- 公共交通機関をご利用の場合
[三重交通バス利用] 近鉄・JR松阪駅のJR改札口側バスターミナル2番のりばから「松阪中央病院行き」に乗り、[文化会館]下車すぐ。(所要時間/15分)
[市街地循環バス「鈴の音バス」利用] 近鉄・JR松阪駅から左回りで「市民文化会館」下車すぐ。(所要時間/約15分)
- お車でお越しの場合
伊勢自動車道松阪インターを降り、そのまま直進していただくと商業施設パワーセンターが見えてきます。その信号左折し、次の信号を右折すると会館が見えます。(松阪インターより約5km、所要時間/約7~8分)
※クラギ文化ホール、農業屋コミュニティ文化センターは同一敷地内で、駐車場も共用です。

松阪市民能についてのお問合せは 松阪能楽連盟(上森)まで TEL. 0598-23-1935

